

黒羽学園（コミュニティスクール）だより

第3号 2023年 9月 作成：広報部会

<第3回学校運営協議会>

9月になってからも気温が30度を超える真夏日が続きました。大田原の観測所の記録では、20日間のうち15日が真夏日という状況でした。こうした猛暑の中でも、数年前に各教室に導入された空調設備のおかげで、子どもたちは大きな支障もなく、学習活動に取り組んでいます。特別教室や体育館での活動制限はありますが、ありがたいです。

9月20日（水）には、須賀川小学校を会場に、第3回の学校運営協議会が開催されました。会議の内容や授業参観の様子などをお知らせいたします。

<授業参観の様子>

須賀川小学校の授業の様子を参観しました。



<小・中一貫教育について進捗状況の報告>

地域連携推進部会

- 9年間を見通した系統表を作成し黒羽の良さを再確認させている。
- 各学校における地域と連携した実践をホームページ上に掲載する準備を進めている。
- 学校運営協議会と連携し、子ども達が、地域の未来について考えたり社会に自ら参画したりできるような取組を検討している。

健康推進部会

- ・生活習慣チェックを行い以下の、児童生徒の実態を把握した。
 - ①「就寝1時間前には、メディア使用をやめている。」割合
 - ②発達段階に応じた「就寝目標時刻前に就寝した」割合
- ・地域学校保健委員会で、「メディア活用と健康問題」について、講演会を準備している

学力向上推進部会

- ・算数、数学の記述式問題の分析を行い、各学校で改善に取り組んでいる。
- ・児童生徒の「学習に関するアンケート」を12月に実施予定。
- ・ICT機器の有効活用を継続する。学校間で記録を保管したり、活用情報を共有したりしている。(小中一貫の共有フォルダの利用)

生活向上推進部会

- ・「自分のことは自分でやろう」をテーマに各学校で実践。中学校では、デジタル機器を日常生活の情報管理に役立てている。
- ・学校間での情報共有や特別支援部会との情報共有を丁寧に行っている。

生活・総合部会

- ・9年間の生活科総合的な学習の時間の学習内容一覧を作成することができた。
- ・次年度の小中一貫教育の研究発表に向けて、「小中合同の総合的な学習の時間の指導案」を検討している。

体力向上部会

- ・体育の授業の「補強運動」や業間の時間を活用した運動を継続する。
- ・児童生徒の興味関心を深める教材や教具を工夫している。
- ・小学生の陸上種目の合同練習会を予定している。

ICT部会

- ・「黒羽学園ICT推進における子ども達の到達目標」を改訂し、それに沿って指導している。
- ・ICT機器を使った効果的な実践事例を黒羽学園として保管し、研究や日頃の指導に役立てる。
- ・各学校で実践している研究授業の様子を保管し、今後の研究に生かしていく。

特別支援部会

- ・「インクルーシブ教育」について、学校の職員会議で周知している。
- ・「小中リモート交流会」や「小中交流会」の実施を計画している。
- ・進路情報について、黒羽学園内で情報の共有をしていく。

<学区ごとの話し合い>

川西小学区

- ・授業の支援にボランティアを募り、丁寧な指導に生かす。現在複数のボランティアに協力いただいている。地域と保護者でできることを考えていく。

須賀川小学区

- ・少子高齢化が進行している。地域の活性化のためにできることを考えている。須賀川地区独自の組織「あづまっぺ」協議会との連携も検討していく。学校の特色を前面に出し、「街では味わえない教育、体験ができて、心が豊かになる場所」として、価値づけたい。

両郷中央小学区

- ・かつては「もちつき」、「米作り体験」を行っていた。地域には「ことぶき大学」、「女性セミナー」などの組織があり、連携も再開している。「地域とともにある開かれた学校」を充実していきたい
- ・中1ギャップへの不安は存在する。親同士のコミュニケーション不足も要因として考えられる。行事等を通して保護者同士が話し合う機会があれば、つながりを深めることができる。

黒羽小学区

- ・児童生徒の課題として、主体性、ハングリー精神がある。易きに流れる傾向や不登校など割合も気になる。小中高を通じて学力の向上を図ることが課題と考える。県立高再編に伴い、黒羽高校入学者定員も減少となる予定。
- ・学校としては、「善悪の判断」、「生活力」を身に付けさせたいと考えている。また、かつては部活動を通して身に付けてきたような「あいさつ」、「礼儀やマナー」などが失われつつあるようにも感じる。現在中学校の部活動に関しては、「地域移行する」という流れもあり、小中の連携は難しい部分もある。

